

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891800011		
法人名	社会福祉法人 健楽会		
事業所名	グループホームいけだ		
所在地	福井県今立郡池田町常安22-5		
自己評価作成日	平成22年7月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kouhyo-fukui.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=1891800011&amp;SCD=320">http://www.kouhyo-fukui.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=1891800011&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成22年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の資質向上と利用者の方に少しでも居心地良く過ごしていただくために、研修や勉強会に力を入れて取り組んでいます。また、自然環境に恵まれていて後ろの畑には、ジャガイモや大根を栽培し、利用者の皆様と一緒に畑作業に取り組んでいます。収穫の時は地域の子供たちと一緒に賑わっています。地域性を活かした活動を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは山や川のある自然豊かな地域に立地しており、ホーム内も明るく広々しており、入居者は職員の支援を受けながらゆったりと過ごしている。地域との結びつきも強く、ホームの運営に日常的な協力が得られている。また、併設の特別養護老人ホームと合同で研修を開催するなど、職員の資質向上に努めており、介護計画の作成や見直しなども職員で話し合い、ケア内容の評価や見直しに際して先駆的な手法であるDCM(Dementia Care Mapping)を用いて緻密な評価を行っている。できる限り利用者や家族の意向を支援に反映するよう

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の建物の中に入った時から職員が心がけてもらえるよう正面玄関に基本理念を掲示している。	ホーム独自の理念を玄関に掲げ、研修時にも全職員で確認し共有している。	理念を基にした具体的な介護目標などの策定も期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われるイベントや行事等に参加、もしくは施設に子供達を招いている。また散髪や買い物など極力地域に出かけていき顔見知りの関係が維持できるよう努めている。	法人全体の納涼祭に地域の人を招待したり、幼稚園に声かけしホームの畑で栽培したじゃがいもを共同で収穫するなど、地域住民と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々地域へ出かけて行くことで、認知症があっても安心して暮らしていけることを理解してもらうよう取り組んでいる。また、納涼祭等、施設の大きな行事には地域の方を招いて、いつでも相談できる施設であるということに努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	福祉関係者の方が集まるので、いろいろな意見を聞くことができ充実している。先日も「エコキャップ回収」の話聞き、できることで地域貢献に参加している。	会議では、家族代表・区長・民生委員・町担当課長・町社協職員等のメンバーでホームの取り組みについて意見交換し、その内容を運営に反映している。メンバーはホームに協力的で、様々な情報を提供してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に1度「指導監査」を受け、そこでケアプラン等の意見を求め、改善に努めている。	町担当者と積極的に連絡をとっている。町担当者の助言で町の敬老会に参加できるようになるなど、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていないが、月に1回程度「身体拘束」について話し合いを持っている	前回の外部評価後、ホーム内で犬を飼うことをきっかけに施錠を廃止し、職員の見守りによる支援を行うようになった。また、毎月の委員会で身体拘束について話し合い、職員会議で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員に対してストレスを与えないよう職場環境の改善に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会において、成年後見制度や日常生活自立支援事業について理解を促した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約書を見ながら疑問点等を伺う。説明を行い納得してもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回発行する広報に要望やご意見等を公表しその改善についても提示している	ホームに意見箱を設置したり、年2回の家族交流会や介護計画の見直し時に家族から積極的に意見を聴くようにしているが、あまり意見は出ていない。	無記名のアンケートを実施するなど、家族の率直な意見がより出やすい工夫も期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議において職員から意見を聞き改善できるところは改善に努めている。また、年1回職員個人から意見や要望を聞き、改善するよう努めている	職員の意見が出やすいよう管理者は常に気を配っている。また、職員の提案でホームの行事を多く企画するなど、職員の意見がホーム運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて月2回勉強会を行いスキルアップも目指すことでやりがいや向上心のアップに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「DCM」を取り入れることで、他人から見る良い点・悪い点を振り返り、「気づき」につなげケアの質の向上や改善に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の中で研修も含め交流を深め、互いに質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接本人より要望等を伺い、ケアプランに反映させている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される時に家族より要望等を聞きフェースシートに記入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどの方が、在宅生活が困難な状態で入居されるため、1日でも早く生活に慣れていただくよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分の居場所」を築いてもらうためにできることは本人にしてもらうよう促している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回「暮らし」が見えてくるような広報を送付している。また、年2回交流会を開くことで家族との時間も大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの病院に受診すると必ず顔見知りの方が居て座談会に発展したり、敬老会に参加することで同級生の方や近所の方が声をかけて下さるなど、地域で暮らすことの大切さを支援している	通院時や町の行事など外出支援をしており、その場所に馴染みの人が集まっていたり、通院時の帰りに入居者の希望で馴染みの方の家に立ち寄るなど、関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がお互いをフォローし孤立せず穏やかな生活が送れるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了者は、死亡者のみ		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用することで、本人の希望や意向の把握に努めケアプランに反映している	センター方式を採用し、職員が日ごろの関わりの中から本人や家族に希望を聴いたり、本人の表情などから読み取った思いを集約し、職員間で共有し思いを汲んだ支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方より今までの「暮らし」について機会がある度伺っている。また初回時には、サービス担当者等に情報をもらうようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の把握については介護日誌等に記載し職員が把握できるようにしている。1日の過ごし方については介護記録等で把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回程度「ケアカンファ」を行いケアの在り方について検討している	6か月に1回、本人や家族の意向を踏まえた計画を作成(見直し)している。また、DCM(Dementia care mapping)の評価者に協力してもらい、充実したモニタリングや評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月2回程度「ケアカンファ」を行いケアの在り方について検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なし		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前から受けている医療を存続できるように努めている	ほぼ全員が町の診療所をかかりつけ医としているため、診療所と連携し週1回往診が確保されている。また診療所へ行く際は、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養と合同の勉強会において、医師や看護師から意見を求めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	前年度において入院患者の方は該当なし		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期はどうしたいか本人に元気なうちから聞いている。また終末期においては家族の意見を尊重し、医師と連携を図りながら安心して安楽に暮らせるよう支援している	終末期になる前に本人・家族・かかりつけ医などと話しあっている。ホームでは関係者の支援を得ながら看取り介護も支援しており、住み慣れたホームで最期まで暮らすことができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師との勉強会や消防士との救命講習を開いて緊急時に対応できるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や地区の自警団の方とともに災害に対応できるよう訓練を行っている	年2回消防訓練を行っており、内1回は消防署・自警団・地域住民の協力を得ている。緊急時の連絡網が整備されており、消防設備や非常食等も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の基本理念である「尊厳のある暮らし」を大切にしているため、人格を傷つけないよう努めている	外部講師を招いた接遇研修を年3回行うなど、職員の接遇への意識も高く、入居者への態度や言葉使いなども丁寧さが感じられた。個人情報やプライバシーについても勉強会を行い適切な取り扱いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定ができるような関係づくりに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方が気にとめて下さり、面会時等に季節の服装の交換やまた理容等は今まで行きつけのところに行きおしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に一緒に準備や片付けを行うことで食に対する楽しみを持ってもらう	調理はリビングのすぐ隣で行われ、職員が利用者と一緒に食事するなど、家庭的な雰囲気がある。食事の準備や片付けなど出来ることを入居者自身が行い、職員はそれを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近くの畑で収穫した野菜や近所の方から頂く野菜を使用し「旬」を大切にしている。水分もいつでも気軽に摂れるような工夫とおやつ の時間や就寝前の補給に嗜好に配慮しながら1日1800mlを心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はうがいや歯磨き等口腔ケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態を勘案して自立に向けた排泄に努めている	オムツは使用せず、入居者の生活リズムを把握し声かけをするなどして、自然な排泄を心掛けている。失敗した場合には、他の利用者に気付かれぬように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の重要性と野菜等の食物繊維の摂取、適度な運動を心がけてスムーズな排便に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3人程度の入浴を実施しているが、本人の体調や意向を大切に、気分よく入浴できるようにしている	基本的に週2日としているが、入居者の希望に応じて入浴できる。入浴が困難な方には、併設の特別養護老人ホームの特殊浴を利用したり、入浴を拒む人には時間を工夫し入りやすい時間に声かけするなどして配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に散歩やお参りなど適度な運動を促すことでほとんどの方が良眠されている。時より眠れない方は話を聞いたり、本人の希望で飲酒をさせるなど自宅にいた時にされてきたことをすることで安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理していることで、受診時における医師との連絡に役立っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の掃除や食事の準備・後片付け等、自分のできる仕事をしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出は本人の希望にそって行っている	毎日周辺を散歩をしたり、イベントなどで外出機会を多くするなど、積極的に外出できるように支援している。入居者個別の外出についても本人の希望を聴き、職員が同行している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少々の金銭は本人が管理されているが、本人が希望される大きな物については、家族の方から金銭をお預かりし通帳管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が書ける方は自分で手紙を出したり電話を自由にかけたりしているが、書けない方もいつも面会に来て下さる方にお礼のハガキを出すよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の時に道端や花壇に咲いているお花を採ってきて花瓶に挿したりして彩りある生活が送れるよう工夫している	ホーム内は日光が差し込み明るく、近くで摘んできた花を生けるなど、季節感がある。リビングには入居者の写真が飾られるなど、家庭的な空間となっている。廊下には椅子を置き、入居者同士が自由に話しあうつろぎの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	死角になる空間にソファを置くなどして、気の休まるような配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットと洗面台、エアコンは施設設置。後の家具等については、家族の方にお願ひし、今まで使われたものを持ってきてもらうようにしている	居室は広く、馴染みの物が持ち込まれたり、壁に絵や写真など好きなものを飾るなど、本人の居心地良い空間となっている。入口のドアが大きく、廊下から見やすい部屋には、ついたて等を使用し、利用者のプライバシーに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室は目でわかるように温泉マークの暖簾をつるしたり、トイレはわかるように看板が設置してある。居室もわかるようにネームプレートを掲げてある。本人が自分で理解できるよう工夫している		